

伝えたい 残したい

# 20世紀 のうしく

問 文化芸術課(牛久シャトー内) ☎874-3121

## 稲荷川流域に広がる浮田

昭和25年(1950年)ごろ



「昔のうしく」の写真(とくに昭和40年代までの写真・  
東部地区の写真)を募集しています。

写真は、城中から新地方面を撮影したもので、写真中央に、細長く区切られた浮田<sup>うきた</sup>が広がっています。浮田とは、湿地帯でヨシやマコモなどの水生植物を利用して作られた田んぼです。当時の稲荷川には、いたるところにヤワラと呼ばれるヨシやマコモが生い茂る場所があり、浮田づくりには最適の環境でした。  
現在、浮田は河川改修工事の影響で姿を消し、稲荷川周辺には用排水路が整った田んぼが広がっています。これは、当時の稲作の様子を伝える貴重な写真です。

## 里山の樹木

問 都市計画課  
☎内線2524

### 第59回 ヤマハゼ



①紅葉期の樹冠:上太田町斜面林(平成24年11月14日撮影)  
②雄花序:城中町斜面林(平成23年6月7日撮影)  
③果実:城中町林縁(平成15年11月4日撮影)

ウルシ科ウルシ属の落葉広葉樹の小高木で、高さ5〜6m。関東以西(本県が北限)沖繩の低地や山地の林内に分布。市内では林縁などに生育します。樹皮は暗褐色で短冊状に薄く剥がれます。葉は互

生し、奇数羽状複葉で9〜11対の小葉からなり、長さ20〜40cm、両面に短毛があります。秋の紅葉が美しく、目立ちます(写真①)。雌雄異株、5〜6月に葉腋から円錐花序を出し黄緑色の小さな花を多数つけます(写真②)。秋に扁球形で径7〜8mmの黄褐色の光沢がある果実を垂れ下げてつけます(写真③)。脂肪質の熟果は冬を過ぐす野鳥の貴重な食料になっています。心材は鮮黄色で染料に利用されます。  
※牛久の里山樹木ハンドブック55ページ掲載。本の問い合わせは牛久自然観察の森 ☎874・6600(まで)。

【資料提供】NPO法人うしく里山の会  
(文章:小松友枝・写真:①戸塚昌宏、②宮澤靖  
③渡辺泰)

## 文芸さろん | 霜月 |

走るバス乗の実ころげ皆笑う	食堂の焼肉弁当久しぶり	猫パンチ逃げる機うかがふ青とかげ	秋になり人恋しくて手紙書く	三ヶ月の愛の形の曼殊沙華	鯉背うごめく睡蓮の池	蝗とり子らはたんぼを駆けまわる	牛久市は金木犀の香り満つ	お食い初め鯛はパパ釣り当歳もの	秋晴れのマスクファッション板につく
月田 勉	中村 さん	宮崎 さん	山崎 さん	仙波 さん	長沢 さん	和多田 さん	堀 さん	月田 さん	

### 〈次回募集テーマは「冬」〉

【作品募集】イラストや俳句、川柳、短歌など  
【あて先】〒300-1292 牛久市中央3-15-1  
「広報うしく文芸さろん」係 FAX:873-2512  
E:kouhou@city.ushiku.ibaraki.jp  
【記載事項】作品、氏名、電話番号  
匿名希望の方はその旨(ペンネームもOK)



※掲載作品は担当課にて審査の上、決定します。投稿いただいた作品が必ず掲載されるわけではありません。

『牛久市版レットデータブック追補版 牛久における絶滅のおそれのある野生生物』  
販売中 ※お求めは都市計画課まで(1,350円)